

# IT技術者、占い頼み

## 不況のインド・バンガロール

命運」などを示す九つの星の位置が画面に示された。

「最近、浪費してるね。少し控えた方がいいんじゃないか」。占星術師として20年以上のキャリアがあるアルピンドさん(68)の声が響く。

信心深いインド人の間で占星術は人気があり、この近所だけで100人ほどの占星術師がいる。よく当たると評判のアルピンドさんのもとには

### 経済危機



①

インド南部、バンガロールにある瀟洒な住宅街。パソコンに名前、生年月日を入力すると、「金運」「生

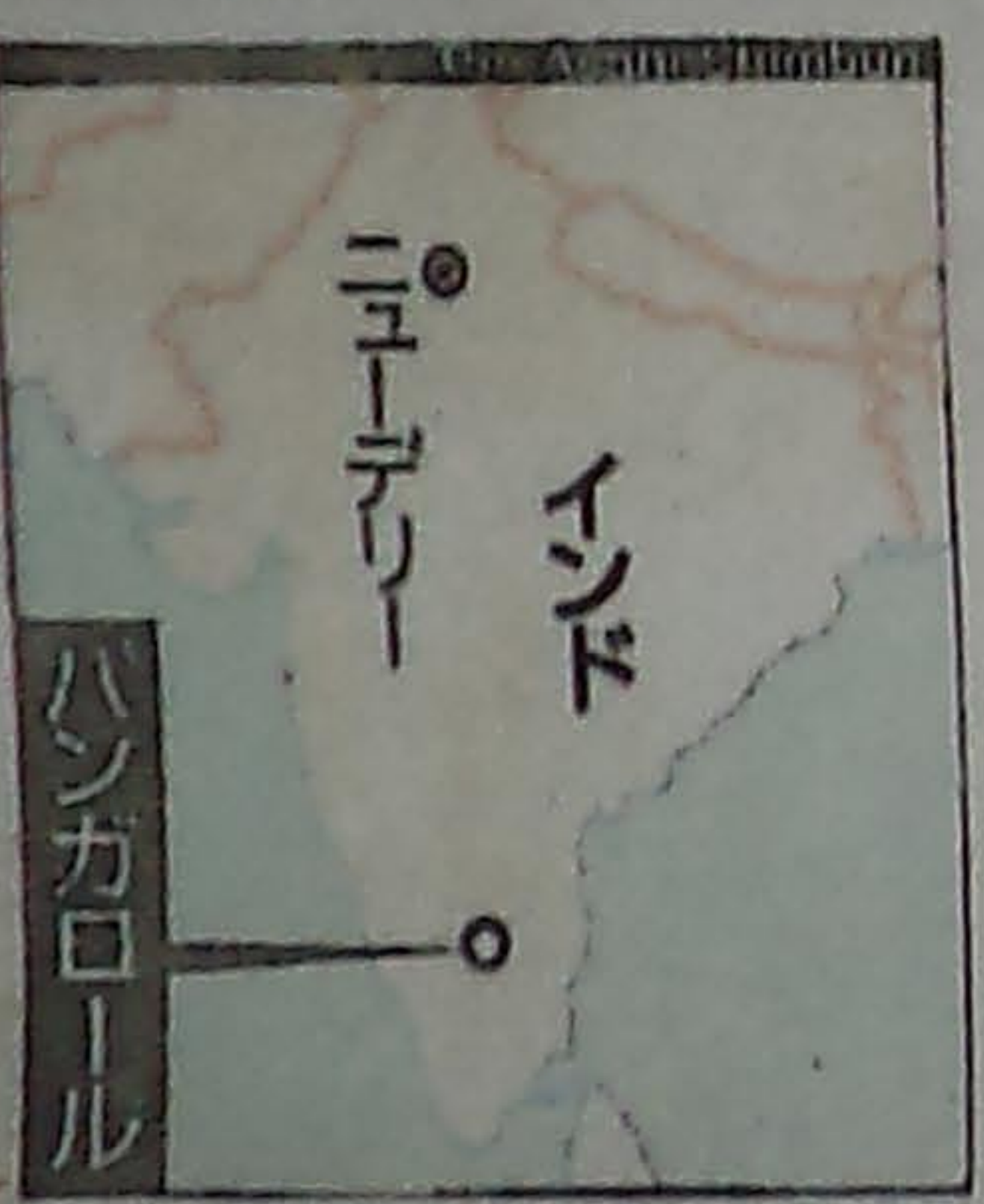
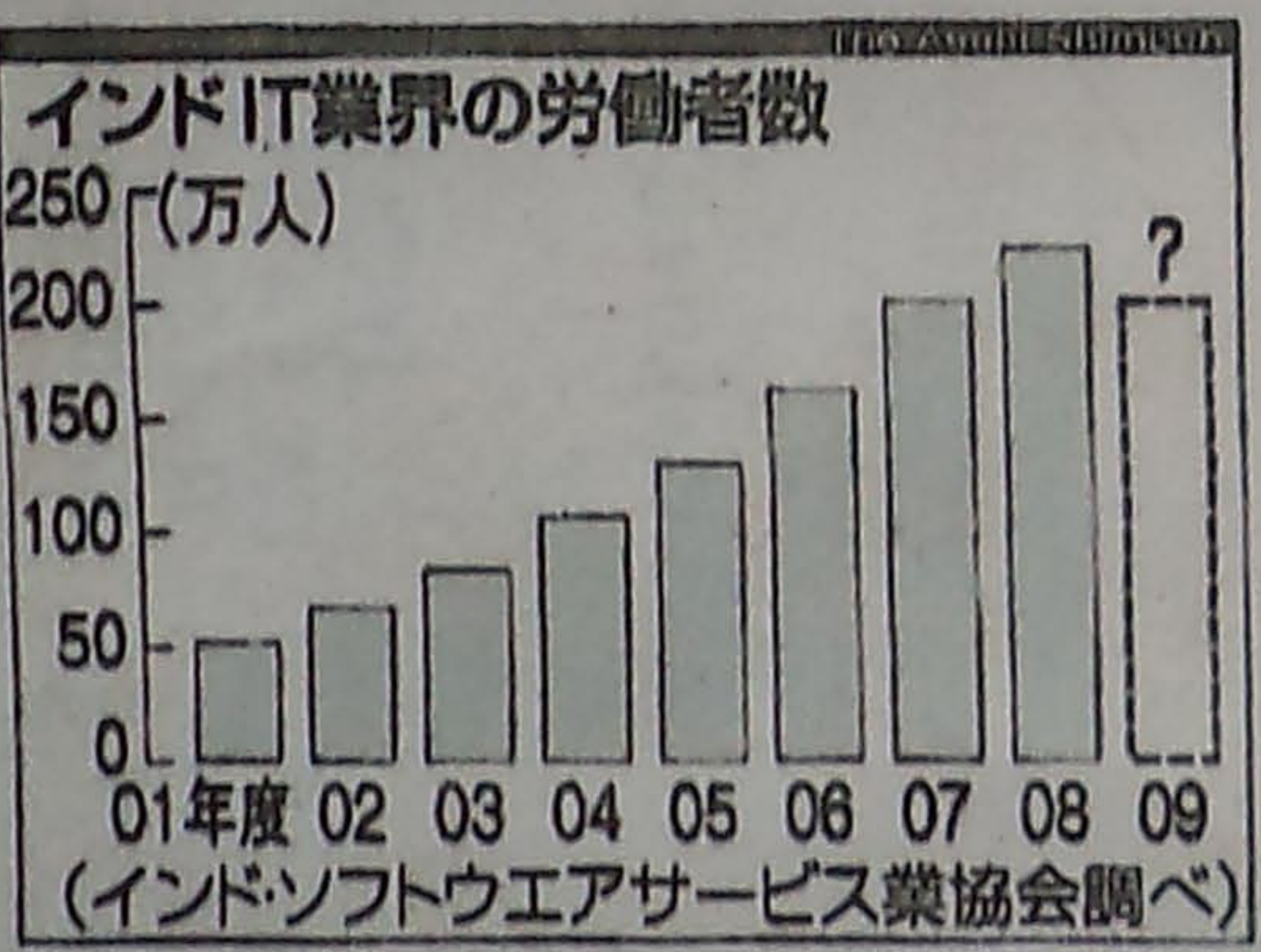


IT企業で働く夫婦の相談にのるアルピンドさん(中)。パソコンを駆使し、「星の占星術」など占いに必要な情報を集める「星」の先生を雇ったバンガロール、高野亨す。

1日に3〜4人、週末はその倍の人数が訪れる。「ほとんどがIT(情報技術)関係者。いつ解雇されるのか、そんな相談ばかり」。客はこの1年でぐんと増えた。

大手企業でプログラマーとして働くクマールさん(39)は社内失業状態だったが、占いに従って会社を変え、仕事にありついた。でも不安は尽きない。幸運をもたらす宝石をアルピンドさんから買い、呪文を唱える日々が続く。

サファイアやエメラルドといったアルピンドさんが扱う宝石は1万〜(約2万円)ほど。安くないが飛ぶように売



れる。「数学や情報処理が得意でも、明日を見通すことはできないからね」

インドのシリコンバレーと呼ばれる街を今、不確実性という妖怪が徘徊している。

「先が見えない。史上最悪の事態だ」。バンガロールに本社があるIT大手インフォシスの09年1〜8月期決算は、ドル建て収入が前年同期比で1.8%減少。年20〜30%の成長から一転、創業以来初のマイナスとなったため、ゴバラクリシュナン最高経営責任者(CEO)はいら立ちをあらわにした。最大の要因は、売り上げの6割を占める米国向けの低迷だ。金融機関などがIT投資を減らしたあたりを食った。

## 日本語熱

にわかに脚光を浴びているのが日本語教室だ。

「『数学』数える『人数』、それぞれ何と読みますか」。夜7時。住宅街にある「ナビス」の教室は、教員の日本人女性に聴き入るIT技術者でごったがえす。開校翌年の05年の生徒数は100人。それが300人に膨らんだ。独自の教科書に「組み込み」など専門用語が並ぶ。教師の桑原都江さんは「以前は一生懸命命を伝えないと集まりませんでした。今は生徒が押しかけてきます」。市内の日本語教室は10カ所前後。どこも盛況だ。